

資料編

もくじ

i	川崎市における子どもをめぐる現状	43
ii	川崎市子どもの権利に関する条例	51
iii	川崎市子どもの権利委員会規則	56
iv	川崎市人権オンブズパーソン条例	57
v	川崎市人権・男女共同参画推進連絡会議幹事会 子どもの権利施策推進部会設置要領	61



i 川崎市における子どもをめぐる現状

1 子どもの人口の推移

(1) 全体



出典:川崎市年齢別人口(各年10月1日現在の数値。児童人口は18歳未満)

(2) 外国人登録から

18歳未満の人口の推移



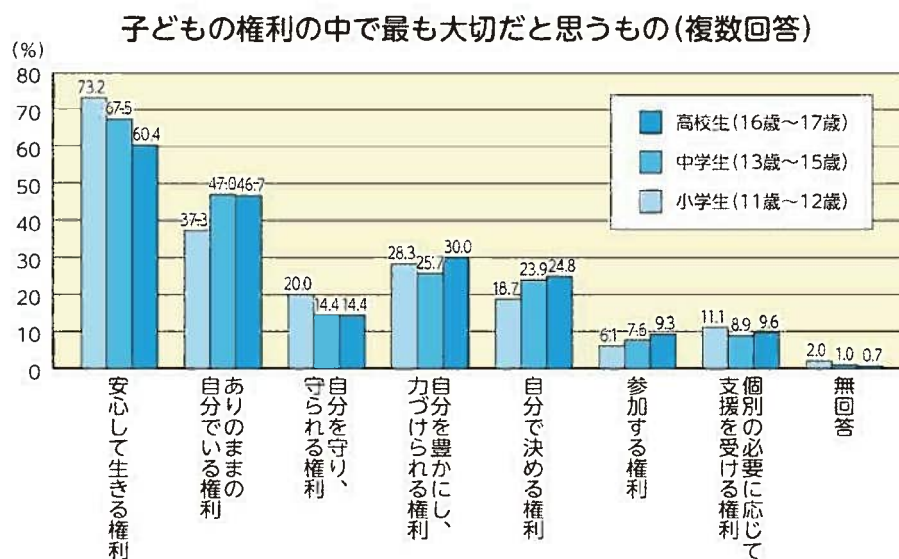
出典:川崎市管区別年齢別外国人登録人口(各年6月末現在の数値)

2 子どもの権利に関する実態・意識調査(2011(平成23)年3月実施)から

(1) 子どもの権利の中で、最も大切だと思うもの

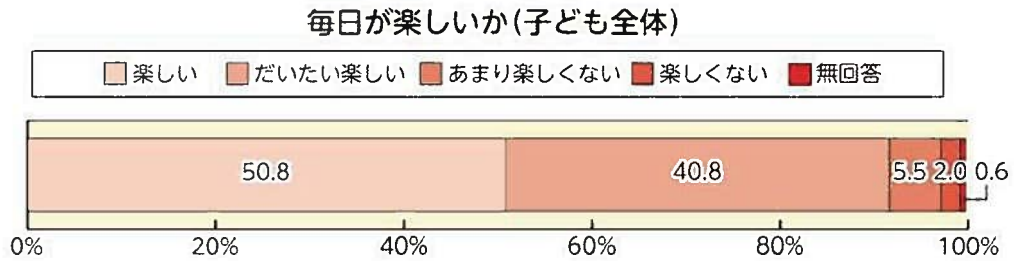
子ども全体で最も多かった回答は、「安心して生きる権利」の68.1%でした。次に「ありのままの自分である権利」が42.9%でした。

年齢別に見ても、すべての年代において「安心して生きる権利」が最も高い回答でしたが、特に小学生世代では73.2%と高い割合でした。

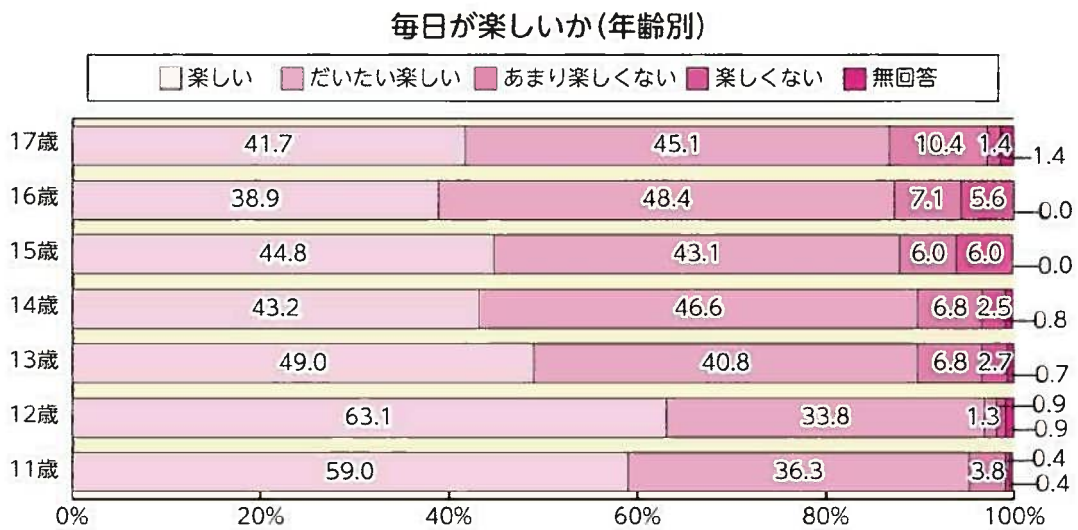


(2) 毎日が楽しいか

毎日が楽しいかという問いに対して、子ども全体では、「楽しい」50.8%、「だいたい楽しい」40.8%、あわせて91.6%が肯定的に回答しています。

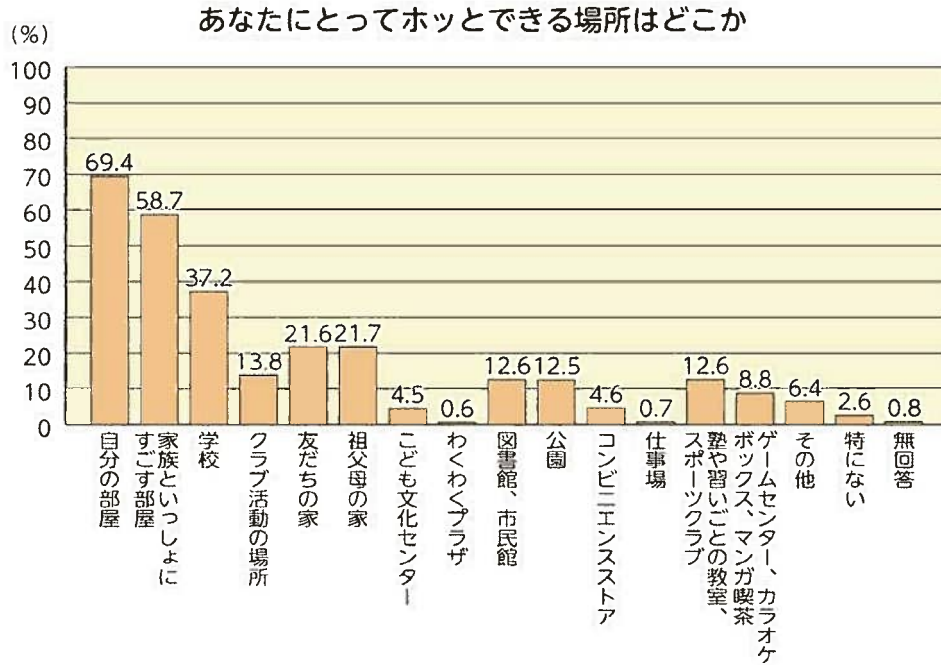


年齢別に見ると、小学生世代(11歳~12歳)では「楽しい」という回答が6割前後ですが、中学生世代(13歳~15歳)・高校生世代(16歳~17歳)になると「楽しい」という回答は半数を割り込んで徐々に減り、高校生世代では4割前後となります。かわって「あまり楽しくない」「楽しくない」という回答が増加しています。



(3) 安心できる居場所

子ども全体では、最も多い回答が「自分の部屋」69.4%、次いで「家族といっしょに過ごす部屋」58.7%でした。次に「学校」37.2%、「祖父母の家」21.7%、「友だちの家」21.6%でした。



(4) 子どもが安心して、自分らしく生き、社会に参加しながら成長していくには、どんなことが大切か **自由記述** ※標記は原文のままです。

- ・自分一人では絶対に生きていけないから、周りの大人や親がしっかり支えてくれるのが一番大切だと思う。どんな事があってもそういう人がいてくれれば、絶対乗り越えられると思うし、自分が大切にされてると実感することで、自分も他の人に同じように大切に出来ると思うから。 (16歳・女)
- ・虐待がされない社会にしていくことが大切だと思います。子どもは学校などで、いじめなどの嫌なことがあっても家に帰れば温かく守ってくれる家族がいるから、成長していけるのだと思います。だから家族だけでも常に子どもの味方であることが、大切だと思います。また、もし虐待などがあっても社会が家族代わりになって助けてあげることができたら素晴らしいと思います。 (16歳・女)
- ・大人は子どもの意見を聞き、子どもも大人の意見を聞き、何でも話し合いながら過ごすことが大切だと思う。あとは、個性の尊重、相手の事を考えて過ごせばいいと思った。 (14歳・女)
- ・失敗を認めて欲しいし、答えを押し付けないで欲しい。ただし、自分も失敗や選択には、はっきり責任を取るべきだと思う。言葉より行動で責任を表せるようにすることが大切だと思う。 (15歳・男)
- ・大人は自分の子どもじゃなくても守っていく。子どもは守られながらも自分の意見を言える。ということが、大切だと思います。 (12歳・女)
- ・陰で助けを求めている子どもをいち早く見つけること。相談機関をもっと身近に感じられる工夫。学校で配布物を配るだけではあまり意味がないと思う。 (16歳・女)
- ・公園で少しキャッチボールをしていたら、大人に追い出されて遊ぶ場所が無くて困っている。小さい子に当たると危険だからとよく言われるが、当たらない場所でやっているし、一回もあてたことはない。それで今の子どもはゲームばかりやっていると言われたらとても困る。なので自由にボール遊びの出来る広い公園を造って欲しい。 (12歳・男)
- ・子どもがいきなり社会に参加するというのは難しいと思うので、子どもが気軽に参加できる地域や社会の活動や行事が大切だと思います。 (16歳・女)
- ・障害を持った人や持たない人、貧しい人、金持ちな人、国籍が違う人を平等に受け入れることの出来る優しい心。「子どもだから〇〇」とか言わない。真剣に子どもに接してくれる大人。 (15歳・女)

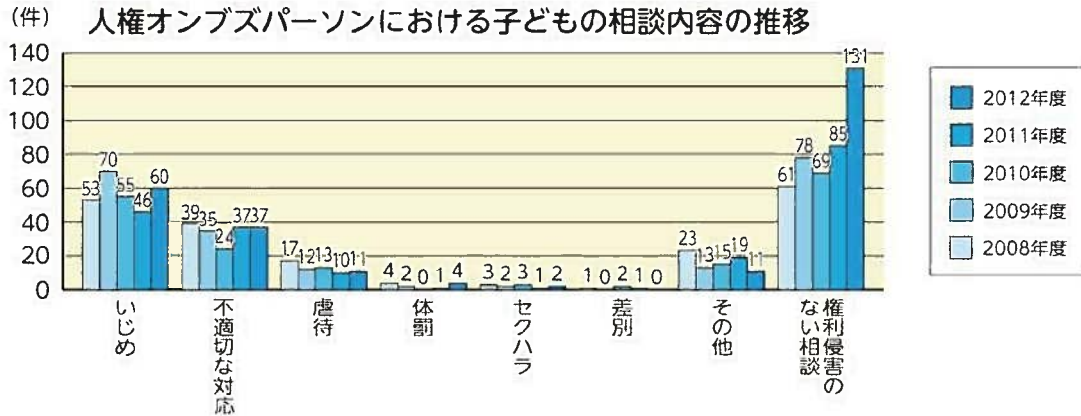
- ・私は今、不登校なので、不登校でも差別されない社会作りが大切だと思います。不登校でもちゃんと勉強しているし、不登校＝バカではないと思います。それから緊張感の少ない学校作りや不登校でも進学、就職のできる社会作りも大切だと思います。(14歳・女)
- ・大人は子どもに圧力をかけすぎず、でも叱る時はしっかりと叱り、子どもが困っている場合には、相談にしっかり乗ってあげるのが大切だと思います。(15歳・男)
- ・まず、子どもが安心する前に親である大人が余裕を持って暮らしていけるような社会にすべきだと思います。あと、小・中・高の先生の数が足りてないと思います。一人の先生に対して負担が多すぎるので正直、いつも見てて可哀想に思います。生徒のことなんか、ほとんど分かってくれない先生ばかりです。だから相談したくても"忙しそうだから出来ない"とか思ってしまっていつも自分の中に溜め込んでしまってます。もっと学校も社会もゆとりを持っていけば自然と子どもが安心して暮らすことができるんじゃないかと思っています。(17歳・女)
- ・14歳くらいの人が遊べる施設を作ってください。カラオケやディズニーランド等となると、少しいけない気がします。安心して気軽に利用できるものはないのでしょうか。ゲームセンターなどはよくありません。(14歳・女)
- ・大人とのコミュニケーションをたくさん取っていくことによって、子どもも安心して自分の思う事が言い合えるようになるのではないかと思います。あと、子どもから大人までみんなが信頼し合えるような町になったら変わっていきけるのではないかと思います。(16歳・女)

出典:川崎市子どもの権利に関する実態・意識調査 報告書(平成24年3月発行)

3 人権オンブズパーソン報告書から

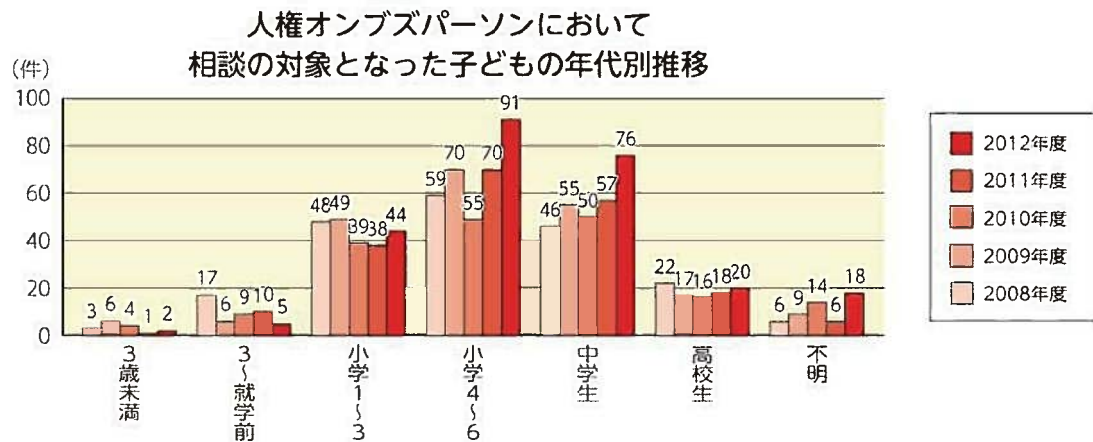
(1) 相談内容の推移

人権オンブズパーソンにおける相談では、権利侵害のない相談を除くと過去5年間ともにいじめに関する相談が最も多く、次に学校における不適切な対応が続いています。



(2) 相談の年代別推移

相談の対象となった子どもの年代別で見ると、小学生から中学生の相談が多くありました。



(3) 救済の申立て受付状況

人権オンブズパーソンでは、権利を侵害されたとと思われる者はもとより権利を侵害したと思われる者や、関係機関等に調査を行い、必要に応じて調整を図るなどの救済活動を行っています。2012(平成24)年度の子どもの救済申立て件数は11件で、申立ての内容としてはいじめと学校等の不適切な対応に関するものでした。

2012(平成24)年度 人権オンブズパーソンにおける救済の申立受付状況

	種 別	申立ての内容	申立・調査開始	終 了	活動回数
1	子ども	不適切な対応	平成24年 5月	平成24年 8月	25
2	子ども	不適切な対応	平成24年 7月	平成25年 3月	73
3	子ども	いじめ	平成24年 8月	平成25年 2月	26
4	子ども	いじめ	平成24年 9月	平成25年 3月	63
5	子ども	不適切な対応	平成24年 9月	継続	10
6	子ども	いじめ	平成24年10月	継続	58
7	子ども	いじめ	平成24年10月	平成25年 3月	40
8	子ども	いじめ	平成25年 2月	継続	42
9	子ども	不適切な対応	平成25年 2月	平成25年 3月	21
10	子ども	いじめ	平成25年 2月	継続	13
11	子ども	いじめ	平成25年 3月	継続	3

出典:川崎市人権オンブズパーソン 平成24年度報告書(2013(平成25)年5月発行)